

令和3年度 主題研究（フレンドタイム）資料

研究主題

「よりよい人間関係を形成する特別活動の研究」

～対人スキルを活用する場面を広げようとする児童の育成～（6年次）

北九州市市立今町小学校

主題研究推進部

1. 本年度の研究について

研究主題としてフレンドタイムを立ち上げて、今年で6年目になる。しかし、今町小学校では、それよりも前から人間関係プログラムとして、ソーシャルスキルやグループエンカウンターに取り組んでいた。主題研究では、算数や国語などの教科にも取り組んだこともあるが、それでも人間関係プログラムは無くなることはなかった。それは、自分の感情を抑えられない子ども、規範意識やコミュニケーション能力が低い子、あいさつができない子など、本校児童の課題を改善していきたいと考え続けてきたからである。今町小学校が、人間関係プログラム（フレンドタイム）に絞って主題を進めていこうと決めたのは、今町をつくってきた現職の先生方が、本校にとってそれが最善であると賛同したという経緯があつてのことである。

近年、本校において『荒れ』という言葉で表される事案が見られることが少なくなり、『落ち着いた』という言葉で表現できる状況にもなってきたようにも思われる。しかしこれは、一朝一夕で築いたものではなく、ましてや、ただ時間の流れとともに変化してきたわけではない。今日までの、先輩の先生方が多大なる苦勞と犠牲のもと築かれてきた賜物である。今を当たり前で、普通だと感じ、気を緩めることはできない。積み上げるのは大変だが、崩れるのは早い。間違いなく子どもたちはよい方向に向かっているが、その基盤（家庭・地域）は不安定であることに大きな変わりはない。いつ崩れ落ちるか分からない『薄氷』の上を、子ども達同様、私たちも歩いている。この薄氷を、慎重に、そして丁寧に重ね、安定した地盤にしていくために、全職員で知恵を出し合い児童の実態に合わせて「模索し続けていく」べきもの。それが、本校の研究であり、子どもたちの課題改善に繋がる道である。ひいては、子どもたちがソーシャルスキルを十分に獲得することができることで、自分の将来に自信をもって生きていくことも期待できると考える。

2. 本研究で目指す子どもの姿と教職員集団の姿

- ・ 自分の気持ちに気付き、自己をコントロールできる児童（ストレスマネジメント）
- ・ 社会的スキルを身に付け、時と場合に応じた行動ができる児童（ソーシャルスキルトレーニング）
- ・ 自分や友達のよさに気付き、互いを認め合うことができる児童（構成的グループエンカウンター）

☆ これらの3つの力を児童に身に付けさせると同時に、教師自身が己の3つの力について見つめ直し、よりよい教職員集団『チーム今町』を形成する

3. 研究年次計画

- 平成28年度 ～自分自身と向き合い、友達を認めることができる児童の育成～
- 平成29年度 ～対人スキルを日常化するためのカリキュラムづくり～
- 平成30年度 ～学習したソーシャルスキルの定着化（いつでも、どこでも、だれにでも）～
- 令和 元年度 ～学んだ対人関係スキルを自ら実践する児童の育成～
- 令和 2年度 ～対人スキルを活用するよさを実感する児童の育成～
- 令和3年度 ～対人スキルを活用する場面を広げようとする児童の育成～

4. 研究仮説

全職員が各学年の発達段階に応じた学び方を共通理解した上で、対人スキルアップの継続的な取り組みを推進すれば、児童は自己をコントロールし、時と場に応じた行動をすることができるようになるだろう。
それにより互いを認め合うことができ、「よりよい人間関係を形成する児童」の育成が図られるであろう。

5. 研究構想図

よりよい人間関係を形成する特別活動の研究

目指す児童像

- ・ 自分の気持ちに気付き、自己をコントロールできる児童
- ・ 社会的スキルを身に付け、時と場合に応じた行動ができる児童
- ・ 自分や友達によさに気付き、互いを認め合うことができる児童

～5年次まで～
活用するよさの実感

異学年交流【たてわり活動】の充実

アンケートや
感想による検証

- 自己評価
- 振り返り
- 学びの足跡

全教職員の行動
観察による検証

フレンドタイム
【系統的・継続的な取組】

【イメージ呼吸法】
【肩上げ動作法】

【エクササイズ】
ゲーム的要素を含む
【考えや感想の交流】
感情に焦点を当てた
指導

【ロールプレイ】
構成的グループエンカウ
ンターとの関連付け
【考えや行動の仕方の交流】
スキルに焦点を当てた指
導

ソーシャル
スキル教育
・正しい言葉遣い
・礼儀作法
・時と場をわきま
えた行動

ストレスマ
ネジメント
・ストレスに対す
る予防
・自己コントロー
ル能力の育成

構成的グループ
エンカウンター
・自己、他者理解
・他者受容
よさの認め合い
・自己有用感
・信頼体験

- 第1段階…ストレスの概念を知る
第2段階…ストレス反応に気付く
第3段階…対処法を習得する
第4段階…対処法を活用する

児童の発達段階・実態

行動観察、アンケート（Qu・hyper-QU・SEL-8S）等による実態把握

6. Sel-8s の捉え

8つの社会的能力を育てる

これらのスキルを、総合的に身に付けることが、社会に対応するために必要であるという考え方

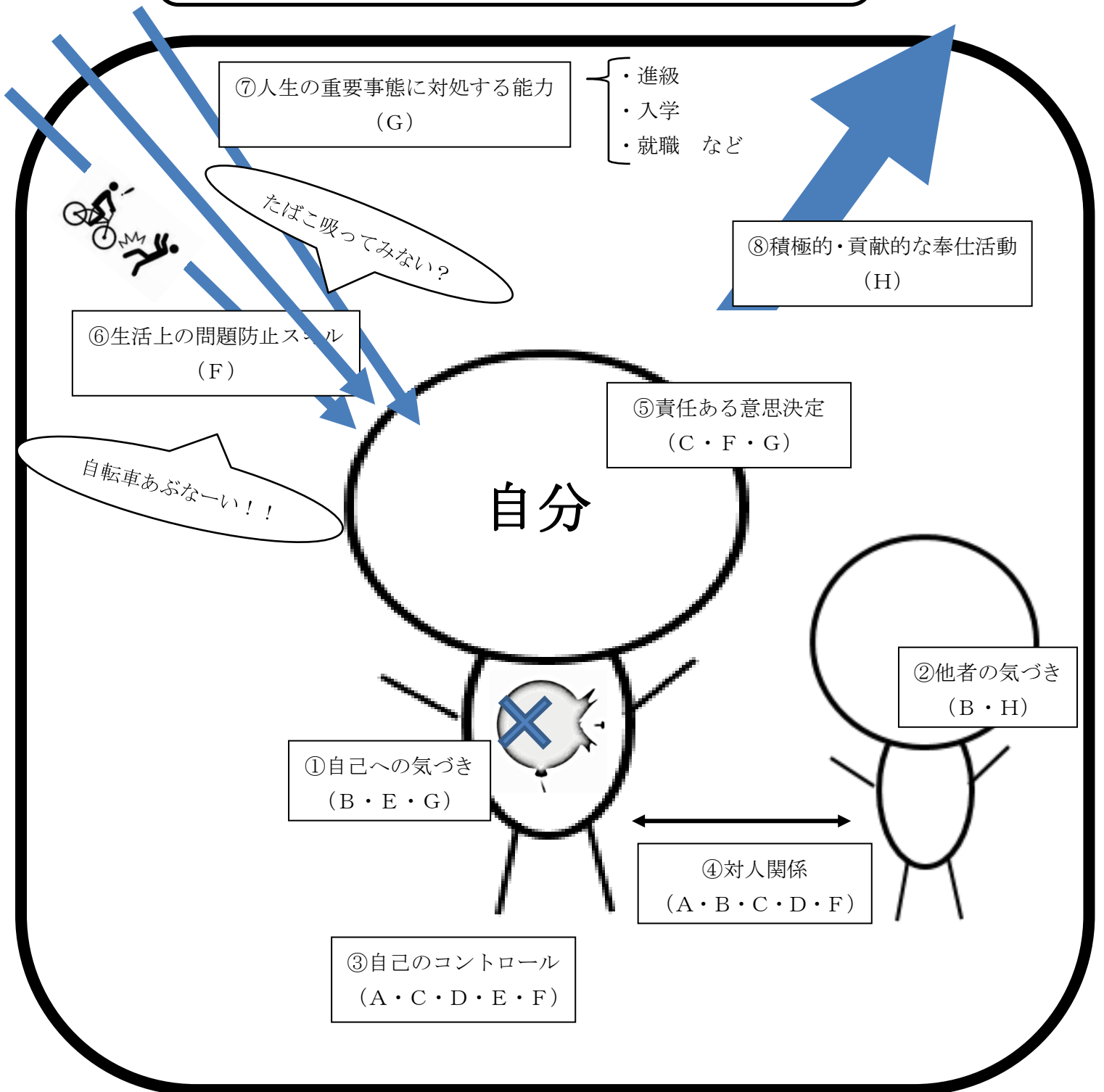
- | | |
|------------------|----------------|
| ① 自己への気づき | ② 他者への気づき |
| ③ 自己のコントロール | ④ 対人関係 |
| ⑤ 責任ある意思決定 | ⑥ 生活上の問題防止のスキル |
| ⑦ 人生の重要事態に対処する能力 | ⑧ 積極的・貢献的な奉仕活動 |

8つの社会的スキルを総合的に身に付けることが、社会に対応するために必要であるという考え方。

小学校では、上記の能力を育成するために、以下のA~Hの学習単元を構成している。

- | | |
|--------------|-----------------|
| A 基本的な生活習慣 | B 自己・他者への気づき、聞く |
| C 伝える | D 関係づくり |
| E ストレスマネジメント | F 問題防止 |
| G 環境変化への対処 | H ボランティア |

8つの力を身に付け
別の社会へ



7. 今年度のフレンドタイム研究について

基本的に、昨年度までの進め方を踏襲する。人間関係プログラムの名称を子どもの公募により「フレンドタイム」とした。ストレスマネジメント「自分の心とキャッチボール」（イメージ呼吸法・肩上げ動作法）、ソーシャルスキル教育（SSE）、構成的グループエンカウンター（SGE）の3つを研究の柱とする。またそれらと併せて、異学年交流による「たてわり活動」の充実を図るようにする。

ストレスマネジメント「自分の心とキャッチボール」については、フレンドタイム実施日（以下参照）のぐんぐんタイムに放送委員会による放送にて実施する。ソーシャルスキル教育、構成的グループエンカウンターについては、昨年度までの研究を基に、各学級の実態などに合わせて改善し実践する。

8. 指導にあたって

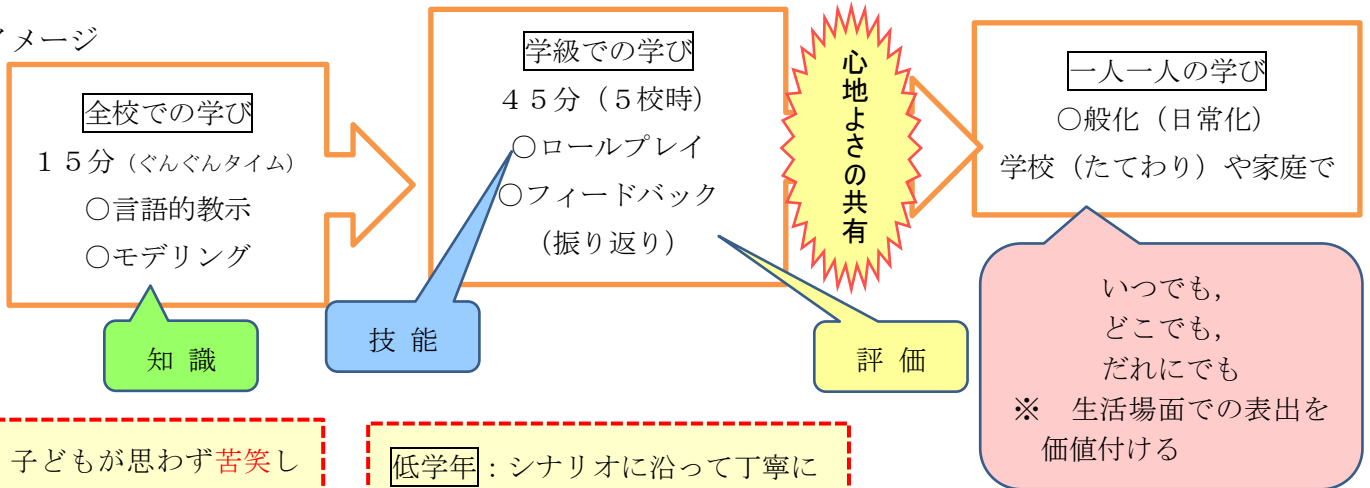
○ 毎月の第1、第3水曜日のぐんぐんタイム及び5校時の時間をフレンドタイム実施日の基本とする。（変更あり）

○ 各学年、月に1コマ（45分）の時間を確保し、さらに価値を深めるように努める。※時数は、学活または道徳科でとることとする。道徳科においては、関連がある題材は積極的に活用する。

※ 実施日

- 1回目…各月の第1週目（水曜日）全校実施
ぐんぐんタイム（14:05～）※先そうじ
- 2回目…各月の第3週目（水曜日）各学級
5校時（14:25～）45分の1コマ

指導イメージ



子どもが思わず**苦笑**してしまうような**現実味のある場面**を選定

- ・対比
- ・気付き

※好ましくないスキルが学習されてしまわないように配慮する

低学年：シナリオに沿って丁寧に練習する

↓

中学年：シナリオを基に**自分らしい言葉で伝える**ことを奨励する

↓

高学年：その場面にふさわしいソーシャルスキルを考える

- ・朝の会や帰りの会の活動
- ・学びの足跡（掲示物）
- ・褒める、認める声かけ
- ・授業の導入やまとめで想起
- ・学校通信や学級通信、あるいは電話による家庭との連携

学習展開	子どもたちの意識の流れ
①言語的教示【言ってみせ】	大切なことだな。
②モデリング【やってみせ】	自分にもできそうだな。
③ロールプレイ【させてみて】	いい気持ちだな。
④フィードバック【ほめて・価値付け】※改善も	スキルを実行してよかったな。
⑤一般化【定着・日常生活での実践】	これからもこのスキルを使っていこう。

その他の留意点

- 昨年度取り組んだ内容で大切な価値や未熟なものは、再度取り入れ、繰り返し指導をする。
- フレーズがあるもの「おかめたこ」「こわか」などは子どもたちにとって親しみやすく、分かりやすいので積極的に取り入れていく。※ないものは自分でつくるのもあり 例「おかめたこ」
- SEL-8 Sだけでなく、CSS（学級ソーシャルスキル）、新版いのち、道徳教科書生きる力なども活用して扱う。
- おかめのあいさつパワーアップデーのように、その他の価値においても、全校で取り組み、達成感や成就感を味わえる取り組み方を工夫する。よりよい児童の姿が「見える化」できるようにする。
- 日常化につなげるため、実践後のワークシートや感想（ふりかえりシート）を記録していく。その際、学年や実態に応じて内容を変更してよい。
- 全校共通のふり返りアンケートを実施することで、児童がソーシャルスキルをどのように捉えているかを見とるようにする。
- 主題推進のための掲示物については、子どもたちの目によく触れる場所に掲示し、日常化につなげる。
- 北九州子どもつながりプログラムも参考にしながら実施する。
- 年間実施計画を基に、全職員が同じ価値の定着化に向けて取り組んでいく。（別紙参照）
- たてわり活動と各月ごとの価値を意識的に関連させ、全職員で声かけすることで定着化を目指す。
- フレンドタイム通信を、家庭に配布することで、家庭との連携を図る。
- 研究紀要作成のため、指導案（略案と本時案）を2本提出する。（別途提案）
- 「ゆっくり 楽しく 続けて」を心がけて指導に当たる。

9. 令和3年度主題研究年間計画（各月のフレンドタイムは別途提案分を参照）

5月12日（水）：全校一斉フレンドタイム実施 「あいさつ」

6月 2日（水）：主題推進計画提案

4月22日（木）：

たてわりグループ顔合わせ（ぐんぐん）

コロナの状況を見つつ随時

たてわりあいさつ（毎週金曜日）

6月 Q-U・hyper Q-U 実施1回目

10月20日（水）： 中学年研究授業 A研 10月 Q-U・hyper Q-U 実施2回目

11月12日（金）： 低学年研究授業 A研

1月19日（水）： きらきら研究授業 A研

2月～3月：主題総括 研究のまとめ 研究紀要作成

10. 手立て

自己評価（事前や事後にアンケートを実施し、学級集団の状態や個々の児童の実態や変容を把握する）

① Hyper-QU アンケート（全学年対象）6月・10月実施

② 毎時間（1コマ授業）の振り返りカードによる自己評価

○ 価値についての評価

○ 記述欄

・ 授業の振り返りや感想

- ・友達によかったところ（支持的風土の形成・よさを認め合う）
- ・友達の意見を聞いて考えたことや思ったこと（知識や理解を広げる） など

※一時間の振り返りだけでなく、1週間継続してチェックカードに記入させることで、評価・改善がしやすくなり、より一層の定着化が見込まれる。

③ 月末の振り返りカード（児童用と教師用）による自己評価

教師の見取り・価値付け（児童の実態・変容に応じて）

- ① その場ですぐに褒める。改善・修正も。
 - ② 学級全体に広める場の設定。
- ※ 個々の変容を見取ることを心がける。全員を計画的に褒める意識。
- ※ 日記から～、保護者との会話の中から～、友達の発表から～、担任以外の教師から～など。

学びの足跡

① フレンドタイムファイル

ワークシートや振り返りカードをファイリングし、毎月の学習記録に残していく。3月に、一年間のフレンドタイムを振り返る時間を取り、来年度につなげる。

② 掲示

廊下や教室にフレンドタイム用の掲示スペースをとり、ポスターを貼るなど普段から児童の目に触れやすいようにしておくことで日常化につなげる。

③ 記録写真

授業では、板書や活動中の様子をカメラで撮り、記録写真に残す。（→研究紀要や論文で必要。）

④ フレンドタイムのあしあと

実施内容・方法・使用した教具等、次年度以降もいつでもだれでも実施できるように、マニュアルをデータで保存しておく。

学習・生活など日常の場面で取り入れる

例：学級の話合いの場面において、「ウメのかさ」人形を掲示する。

例：学級の入り口に「心の信号機」を設置する。

例：あったか言葉の木を育てる。あったかタワーを建てる。あったかポストの設置。

例：ストレスメーターを個人持ちにする。

例：キウイボランティア例を掲示する。 etc・・・

異学年交流（たてわりグループの活用）

① 年間を通して実施（あいさつ、そうじ、給食、大縄） ※今年度も、未定ですが・・・

※ 上記以外にも先生方の知恵を出し合って、楽しみながら実りある実践ができればよいと思います。